

**一般社団法人日本呼吸療法医学会
2019 年定時社員総会 議事録**

日 時：2019 年 8 月 2 日（金）15：30～17：30

場 所：グランキューブ大阪 12 階「特別会議場」

（〒530-0005 大阪市北区中之島 5 丁目 3-51）

【議事次第】

I. 開 会

- ・代議員99名中、出席者80名と委任状提出者15名の合計95名が本総会の成立に必要な過半数であることが報告され、開会が宣言された。

II. 理事長挨拶（藤野理事長）

- ・藤野理事長より挨拶があった。

III. 会長挨拶（藤野会長）

- ・藤野会長より挨拶があった。第 41 回学術集会においては、事前参加登録者数が 1,000 名を超えたことが報告された。

IV. 報告事項

1. 理事会および社員総会議事録の確認・承認（藤野理事長）

- ・前年度の定時社員総会議事録と理事会議事録が報告され、承認された。

2. 事務局報告（大塚事務局担当理事）

1) 一般会員：1,845 名（2019 年 7 月 25 日現在）

職種	'16/10/1 (%)	'17/5/1 (%)	'17/10/1 (%)	'18/6/1 (%)	'18/11/1 (%)	'19/6/1 (%)	'19/7/25 (%)
総 数	2,104 (100)	1,985 (100)	1,962 (100)	1,873 (100)	1,945 (100)	1,824 (100)	1,845 (100)
医 師	1,041 (49.7)	1,005 (50.7)	1,012 (51.6)	996 (53.3)	1,041 (53.5)	1,004 (55.1)	1,016 (55.1)
看護師	456 (21.6)	407 (20.5)	391 (19.9)	348 (18.6)	359 (18.5)	318 (17.4)	322 (17.5)
臨床工学 技 士	436 (20.7)	415 (20.9)	403 (20.6)	385 (20.5)	395 (20.3)	372 (20.4)	373 (20.2)
理学療法士	125 (5.9)	126 (6.3)	124 (6.3)	115 (6.1)	121 (6.2)	106 (5.8)	109 (5.9)
企 業	21 (1.0)	20 (1.0)	20 (1.0)	17 (0.9)	17 (0.9)	15 (0.8)	15 (0.8)
その他※	25 (1.1)	12 (0.6)	12 (0.6)	12 (0.6)	12 (0.6)	9 (0.5)	10 (0.5)

※准看護師・作業療法士・栄養士・院生・学生・教員・学内講師・RN・MSN・研究エンジニア・
薬剤師・歯科衛生士・歯科医師・言語聴覚士・心理士など

《参考》1. 会員総数に名誉会員 30 名は含まない。

2. 女性会員は 454 名（Dr：142、Ns：232、CE：51、PT：23、他：6）。

3. 年度末（2020 年 3 月末）退会予定 5 名を含む。

4. 2 年度分会費滞納者 166 名を含む（2020 年 3 月末退会対象者）。

- ・会員動向について、医師会員数はここ数年ほぼ増減なく 1,000 名前後で推移している一方、他職種は微減傾向であることが報告された。

2) 賛助会員：11 社（2019 年度）

3) 年間購読契約：21 件（図書館、学協会、書店、企業など。年間 5,000 円）

4) 会費納入状況

年 度	2017	2018	2019
納入件数（'19/02）※	1,725（87.9）	1,502（76.5）	—
納入件数（'19/07）※	1,730（88.1）	1,593（81.9）	1,249（67.7）

※各年度に該当する納入件数（納入率）

5) 代議員の所属変更（敬称略、2018.8～2019.7）

- ・関口 浩至（豊見城中央病院集中治療室から琉球大学大学院医学研究科救急医学講座へ）
- ・森沢 知之（兵庫医療大学リハビリテーション学部理学療法学科から順天堂大学保健医療学部理学療法学科へ）
- ・山田 芳嗣（東京大学大学院医学系研究科外科学専攻生体管理医学講座麻酔学分野から国際医療福祉大学三田病院へ）
- ・吉岡 淳（山形大学医学部附属病院臨床工学部から群馬パース大学大学院保健科学研究科へ）
- ※大家 宗彦（兵庫医科大学病院救命救急センター）→退会

3. 定款施行細則・内規改訂の件（大塚事務局担当理事）

- ・セミナー委員会内規第 4 条において、セミナー事業の会計に関する収支報告を行う旨が明記されていたが、事業形態が当初の独立採算から連結決算へと変更され単独事業報告を行わないことになり、第 4 条を削除することが報告された。

4. 学術集会準備状況

1) 第 42 回学術集会準備状況（志馬副会長）

- ・2020 年 6 月 27 日（土）・28 日（日）に国立京都国際会館で開催する。
- ・ポスターが完成し、理事会・定時社員総会・学術集会にて配布・告知を行う。開催まで 11 か月を切っており、プログラムを早々に固めて指定演者へ依頼を行い、一般演題は 2019 年の年末から 2020 年の 1 月末にかけて募集する予定であることが報告された。

2) 第 43 回学術集会準備状況（大塚副会長）

- ・2021 年 7 月 3 日（土）・4 日（日）にパシフィコ横浜で開催する。
- ・若手を登用し、多職種の参画を促す企画を検討していく方針が報告された。

5. 各委員会報告

1) 将来計画委員会（藤野委員長）

- ・財務委員会と統合し“将来計画・財務委員会”と改称したことが報告された。毎年、総会前に開催している委員会を 1 時間に延長し、さらに年複数回開催し、会員数増加策や財務改善などの行動計画を策定し実行を目指す。
- ・財務については、学術集会 1 回分の内部留保を当面の目標とする。
- ・機関誌『人工呼吸』の電子化について理事会で提案があったことが報告された。発

行部数が多いほど経費削減効果は大きい、本会の規模ではそれほどの効果が見込めない可能性についても言及された。電子化されても印刷物としての機関誌を希望するか否かについて会場に訊いたところ、強く紙媒体を要望する声はなかったが、会員に冊子体が届くメリットも大きく、印刷物を残したほうがよいとの意見もあった。本総会での意見をふまえ、実際にオンライン化した場合の試算を行い、次回の理事会で審議を行うことが報告された。

- ・『改訂人工呼吸ハンドブック 2019』については、各論は初校の最終確認を協賛企業 16 社・ユーザーコメント執筆者 31 名が現在行っており、総論は 2014 年版の内容を流用できるかどうか確認中であることが報告された。総論・各論が整い次第、丸川征四郎名誉会員に監修あいさつ文の執筆依頼を行う。

2) 人工呼吸編集委員会（内山委員長）

- ・明日より内山委員長から竹内宗之委員長に交代となることが報告された。
- ・『人工呼吸』第35巻第2号（2018年11月）、第36巻第1号（2019年5月）の発行実績と、第36巻第2号（2019年11月）、第37巻第1号（2020年5月）の企画案が報告された。
- ・2018年度は投稿数が21件となり、前年度の14件から例年の水準まで戻った。2019年度は6月時点で11件の投稿があった。
- ・2018年度『人工呼吸』論文賞として2名が推薦され理事会で承認されたことが報告された。第41回学術集会会員懇親会で表彰式を行う。
- ・ユーザーレポート・広告の掲載状況は、第34巻（2017年度、10社・7件）に比べて第35巻（2018年度、8社・6件）は微減となった。
- ・Letter to Editorについて計画していることが報告された。

3) 代議員審査委員会（西田担当理事）

- ・専門医委員会からの提言を受け、医師の代議員の資格条件に専門医資格を加えることについて、現在持ち回り委員会で審議を行っていることが報告された。2022 年の代議員審査からの導入に向けて引き続き審議を行う。
- ・会場から、医師だけに資格条件が追加されることに違和感があるとの意見があった。また、専門医は臨床や研究面での指標だが、代議員は学会に対する活動を行うので多様な人材を求められ、専門医に限らなくてもよいのではないかという意見があった。

4) 小児在宅人工呼吸検討委員会（渡部委員長）

- ・『小児在宅人工呼吸療法マニュアル第 1 版』は 2018 年 10 月をもって完売したことが報告された。第 2 版の制作に向けて委員会を開催し審議を行っていくことが報告された。

5) セミナー委員会（今泉委員長・大塚担当理事）

- ・明日より今泉委員長から平尾 収委員長に交代となることが報告された。
- ・2018 年度に開催された 7 セミナーについて概況が報告された。
- ・2020 年度以降の実施方針について大塚担当理事から報告があった。まず、実技セミナーは満足度が高いものの構造的な赤字事業となっており、本年度の第 21 回を最後

にいったん終了することとなった。次に、医師向けセミナーは Basic に対して Advanced の参加者数が少なく、本年度は回数を減らすことが決まっており、2020 年度についても縮小の方向で検討を行う。講義については専門医委員会で筆記試験用に制作した『呼吸療法専門医テキスト』の内容と関連させ、専門医制度との融合を図る方針であることも報告された。

- ・実技セミナーについて会場から質問があり、理事長からは、赤字構造もさることながら、学術集会初日午後というメインの時間帯に広い会場を必要とし、多数の委員がセミナー運営にかかりきりになる点が、会長・学会いずれの立場においても支障となるとの説明があった。今後、適切な日程・予算で実施する案が委員会で検討できれば再開は可能であることも報告された。

6) チーム医療推進委員会（横山委員長）

- ・RST プロジェクトが日本呼吸ケア・リハビリテーション学会との合同で動き出し、本委員会の今後の活動について議論を行っていることが報告された。

6-2) RST プロジェクト（尾崎担当理事）

- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会との合同で RST 認定・登録制度が発足し、現時点で 21 施設の認定・登録があることが報告された。
- ・本学術集会でブースを出展し、セッション間のテロップに RST 登録制度の紹介スライドを映写するなど、制度の告知と認定施設への登録呼びかけを行う。

7) 人工呼吸管理安全対策委員会（中根委員長）

- ・人工呼吸器の作動停止事例情報（2018年5月～2019年6月）について、以下のとおり報告された。

情報提供数：8件（実害なし8件、後遺症あり0件）

（アラーム鳴動 8 件、停止に気づいたもの 0 件）

- ・危機管理委員会と合併し、「安全対策・危機管理委員会」として人工呼吸の安全保守管理・社会的問題について取り組むことが報告された。
- ・『人工呼吸器安全使用のための指針（第 2 版 2011 年）』の改訂が予定されていることが報告された。

8) 危機管理委員会（大下委員長）

- ・人工呼吸管理安全対策委員会と合併し、「安全対策・危機管理委員会」として発足することが報告された。中根委員長、布宮担当理事、山本副担当理事の体制で行う。

9) 専門医委員会（中澤委員長）

- ・明日より中澤委員長から内山昭則委員長に交代となることが報告された。
- ・呼吸療法専門医・研修施設の 2018 年度〈更新・新規〉認定結果が報告された。
- ・研修施設不在県における専門医・代議員・会員宛に暫定専門医・研修施設としての申請を推奨した結果、19 名・23 施設からの申請があり、2019 年 6 月時点で研修施設不在県が 7 件（福島・富山・山梨・和歌山・香川・熊本・宮崎）まで減少した。
- ・上記で認定した暫定専門医を含め、更新要件が 2018 年度から改正されたことを改めて告知し、更新講習聴講による計画的な更新点数取得のためにも学術集会への出席を呼びかける必要性が説明された。第 41 回学術集会では 3 コマが専門医更新講習と

して設置された。

- ・筆記試験の出題範囲として本委員会で制作し、会員専用ページで開示している『呼吸療法専門医テキスト 2019』については、2019 年 8 月に 2019 年度版を掲載すべく、制作中であることが報告された。将来的な標準テキストの制作を目指し、改訂を重ねていく。

10) ECMO プロジェクト委員会（大下委員長）

- ・2018 年度は以下のシミュレーション・ラボを開催した。
 - 第 12 回藤田コース（8 月 25 日（土）～26 日（日） 藤田医科大学）
 - 日本蘇生学会臨時ラボ（11 月 16 日（金）～17 日（土） 山形）
- ・2019 年度は以下のシミュレーション・ラボを計画中。
 - 第 13 回広島コース（8 月 31 日（土）～9 月 1 日（日） 広島大学）
 - 第 14 回千葉コース（2020 年 2 月頃、千葉大学）
- ・ECMO 回路の使用上限期間は 6 時間となっているが、Cardiohelp（ゲティンゲ社）について 6 時間以上使用することの安全性に関する検証が行われた。全国 6 施設で目標となる 30 症例のデータ収集が終了したことが報告された。
- ・AVALON ダブルルーメンカテーテルについて、保険償還価格見直しの要望書を他学会との合同で厚生労働省へ提出することが報告された。厚生労働省からは要望書提出に際して 1 例以上の使用実績を作るよう指導があり、小児分野の 2 施設で導入を検討している。
- ・ECMO/PCPS 新教科書については、執筆者と依頼内容の最終確認が終了し、学術集会後に、2019 年 12 月末を締切として執筆依頼することが報告された。Red Book に匹敵する本邦 ECMO 治療のバイブル的書籍を目指すため、共同編者によるピアレビューを行う旨もお伝えしたうえで執筆依頼を行う。

11) 利益相反委員会（佐藤委員長）

- ・高額機器を無償で借りて発表することに利益相反・倫理上の問題がないかを議論した結果、有償でのレンタルもしくは事後に購入したうえで利益相反がある旨を告知すれば問題ない、という結論にいたったことが報告された。

12) 社会保険委員会（落合委員長）

- ・2018 年 12 月、代議員所属施設を対象に排痰補助装置とハイフローセラピーの実態調査を実施したことが報告された。
- ・2018 年 11 月 20 日に開催された一般社団法人内科系学会社会保険連合 2018 年度第 2 回社員総会で、本会の加盟が認定された。代表委員には落合委員長と山田委員のほか、陳 和夫理事と志馬伸朗理事の 4 名を登録した。診療領域別委員会は以下 4 委員会への加入を申請した（諾否は回答待ち）。

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. 検査関連委員会 | 3. リハビリテーション関連委員会 |
| 10. 呼吸器関連委員会 | 20. 在宅医療関連委員会 |

13) 財務委員会（落合委員長）

- ・将来計画委員会と統合されることが報告された。
- ・先のセミナー委員会内規改訂で報告されたとおり、個別事業の単独事業報告は今後

行わない。

14) 倫理委員会（久木田委員長）

- ・第40回学術集会で終末期医療に関する委員会報告（5演題）を発表し、今後も本テーマについて継続的に学術集会で発表していくことが報告された。
- ・「人工呼吸」第36巻第2号（2019年11月発行）に特集「呼吸療法における終末期医療の問題点」を掲載する。

15) 学術集会あり方委員会（西田委員長）

- ・今期から11名の委員で発足したことが報告された。将来計画・財務委員会と連携して会員数減少対策や財務上の課題を含めた学術集会のあり方を検討し、学会として統一した方針を取れるよう議論を進めていく。
- ・検討課題としては、テーマ、内容、参加費などの問題に加え、運営面の課題、とくにコンベンションの複数年契約や広報などについて議論を行っていく。

16) 学術研究推進委員会（志馬委員長）

- ・臨床研究の推進と基礎研究の推進の双方において、学会主導で学術研究を推進していく方針が報告された。
- ・臨床研究については、人工呼吸領域を中心に、急性期に限らず慢性期も含め、多職種の参画が見込める内容を支援し、各委員会で進めている症例登録プロジェクトについても本委員会で集約していく方針が報告された。
- ・ECMOプロジェクトのレジストリは現在、日本集中治療医学会との折半でシステムを利用しているが、先の理事会で、使用料の折半も含め、RED Capへの移行が承認されたことが報告された。

17) 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ（尾崎委員長）

- ・本指針の草案が完成し、学会ホームページでのパブリックコメントを募集していることが報告された。そのうえで学術集会プログラム「委員会報告」に臨み、コメントの募集や発行などの告知を行う。学会の収益となる冊子の制作なども検討を行う。

18) 気管吸引ガイドライン改訂ワーキンググループ（中根委員長）

- ・『気管吸引ガイドライン 2013』発行から6年が経過し、改訂版の制作を開始することが報告された。

19) ARDS診療ガイドライン作成統括委員会（讃井委員長）

- ・現在、クリニカルクエスションに関するパブリックコメントを募集しており、本学術集會会期中にシステムティックレビュー委員会の開催も予定していることが報告された。

6. 委員会体制・委員交代について（大塚事務局担当理事）

- ・3委員会の委員長交代（人工呼吸編集、セミナー、専門医）ならびに統合による2委員会の再編（将来計画・財務、安全対策・危機管理）と、各委員会の委員交代について理事会で確認・承認を行ったことが報告された。
- ・次期で任期満了となる委員は委員会名簿で示されており、2020年2月に開催する理事会までに、後任を推薦するよう要請があった。

7. 旅費規程の改訂について（大塚事務局担当理事）

- ・ 規程としての体裁を整えた。委員以外のオブザーバー（非会員）も旅費の支給対象となる規定、新幹線・航空機の上位クラス料金の支弁に関する規定、宿泊費は税抜と明記する点などを追加し、日当の支弁を廃止する改訂が報告された。

VI. 審議事項

第1号議案 2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）事業報告

および決算書類承認の件（大塚事務局担当理事、川前・橋本監事）

<収 入>

- ・ 年会費：正会員減少により、予算に対し約 170 万円の減となった。年度内の納入率は約 76.6%となり、未収金は約 180 万円となった。
- ・ 事業費：予算に対し、44.5 万円の減となった。好調の医学会セミナーに対し、医師向けセミナー（Advanced）は受講生数減少による減収があった。ECMO シミュレーション・ラボは、2018 年度は 1 回のみの開催となった。
- ・ 専門医申請料：新規申請数が暫定申請増の影響で予算に対し 136 万円の増となった。
- ・ 広告費：広告は前年度より 2 社減となり、ユーザーレポートは 2 号の掲載減により予算に対し 14.6 万円の減となった。
- ・ 機関誌販売：別刷が賛助会員 4 社から例年にない計 34,300 部の注文があり、またセミナー関連書籍の Q&A の販売も伸び、予算に対し約 250 万円の増となった。
- ・ 書籍販売：『小児在宅人工呼吸療法マニュアル』が 2018 年 10 月で完売し、単年度収支は約 220 万円の黒字となった。
- ・ 学術集会：盛況により、予算に対し約 1,670 万円の黒字となった。
- ・ 当期収入は 145,843,779 円となった。学術集会を除くと約 4,160 万円の収入となる。

<支 出>

- ・ 機関誌等発行費：別刷印刷代が、受注増により予算額を 32 万円上回った。
- ・ 事業費：医師向けセミナーは会場や講師の選定など再考した結果、50 万円超の経費削減となった。ECMO シミュレーション・ラボは先述のとおり 2018 年度は 1 回のみの開催となったため、経費が減少した。
- ・ 学術集会：規模拡大により予算に対し約 376 万円の増となったが学術集会単独の収支では約 300 万円の黒字となった。
- ・ 専門医等運営費：『解説集 2018』が当初のページ数より増えたため、編集費が増加し予算額を 20 万円ほど上回った。
- ・ 事務局費：出張費は打合せ回数が増えたため、予算額を 25 万円ほど上回った。
- ・ 当期支出合計は 139,528,021 円、次年度繰越利益は 50,086,822 円となった。

<収支合計>

- ・ 単年度収支は約 630 万円の黒字となった。

<監査報告>

- ・ 橋本監事から、2019 年 6 月 27 日（木）に会計監査を行い適切に運用されていることを確認した旨の報告があった。

- ・以上、2018 年度決算について報告を行い、承認を得た。

第 2 号議案 2019 年度（2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）事業計画

および収支予算の件（大塚事務局担当理事）

- ・事前配布資料の前年度繰越利益額に誤りがあったため、差替え版が配信されたことが報告された。

<収 入>

- ・年会費：2019 年 6 月 1 日時点の会員数に基づいて計上した。
- ・事業収入：医学会セミナーは例年どおり年 2 回実施するが、医師向けセミナーは年 3 回になるため、年 4 回実施した前年度決算額に比べて 180 万円減となっている。
ECMO プロジェクトはシミュレーション・ラボの開催が前年度は 1 回のみであったが本年度は例年どおり 2 回を予定しており、2 回分の参加費 180 万円を計上した。
- ・広告費：2 号の広告費は表回り全箇所掲載を見込んだ額とした。
1 号の広告費・ユーザーレポートについては実費を計上した。
- ・機関誌販売等収入：別刷販売が、前年度は賛助会員数社から 240 万円強の注文があったが、本年度は従来水準の 2 社 12,000 部の注文を想定し 90 万円を計上した。
- ・書籍等販売収入：『小児在宅人工呼吸療法マニュアル』は前年度で完売したため本年度は 0 円とした。
- ・学術集会収入：運営事務局作成の予算案とおり計上した。
- ・以上、当期収入予算は 124,877,500 円で、前年度繰越利益 50,086,822 円をあわせて収入総計予算は 174,964,322 円となった。

<支 出>

- ・機関誌発行諸経費：前年度決算を参考にして計上した。
- ・書籍販売費：『改訂人工呼吸ハンドブック 2019』の制作費 90 万円を計上した。
- ・事業費：医学会セミナーは例年どおり、医師向けセミナーは前年度から 1 回減となる年 3 回の開催、ECMO プロジェクトシミュレーション・ラボは前年度から 1 回増となる年 2 回の開催として計上した。その他、RST 事務経費をあわせ、総額 17,279 千円を計上した。
- ・委員会費：各委員会からの申請額どおりに計上した。
- ・学術集会費：運営事務局作成の予算案とおり計上した。また、本年度の学術集会寄付金見込額 350 万円を計上した。
- ・専門医等運営費：『呼吸療法専門医テキスト 2019』の編集費、筆記試験の運営費など合計 45 万円を計上した。
- ・その他：理事会費・交際費・社員総会費・事務局費・通信費・租税公課・支払手数料・事務用消耗品費・雑費・法人税等を前年度にもとづき計上した。
- ・以上、当期支出予算は 120,807,897 円、次年度繰越利益が 54,156,425 円となった。

<収支合計>

- ・単年度の収支は約 400 万円の黒字予算となることが報告された。

- ・以上、2019 年度予算について提案し、承認を得た。

第 3 号議案 第 44 回学術集会会長候補者選任の件（藤野理事長）

- ・讃井将満先生が推薦され、承認された。讃井先生より挨拶があり、会場、会期、運営事務局などの検討を進めていくことが報告された。

第 4 号議案 定款変更の件（大塚事務局担当理事）

- ・総会欠席時の委任について電磁的方法を認める件について提案があり、承認された。

VII. 閉 会

- ・藤野理事長より閉会宣言があった。